



宇治交配 黒まんぼう (MQX-907)

うどんこ病、ウイルス病に強く、栽培容易な豊産種！

特 性

- ① うどんこ病、ズッキーニ黄斑モザイクウイルス(ZYMV)、キュウリモザイクウイルス(CMV)に抵抗性があり、作りやすい品種です。
 - ② 生育初期から安定して雌花が着生し、収量性に優れます。
 - ③ 果実は円筒形、果皮は濃緑色で光沢があります。
 - ④ 果実は開花後3～4日(20cm前後)で収穫します。果肉は白く緻密でやわらかく、輪切りにして油炒めやしチューなどにすると美味しいです。
-
- ① 果実の肥大が早いので穫り遅れのないように注意します。
 - ② 追肥は、1番果開花する1週間前にN・P・K成分量で5kg/10a程度の割合で行い、肥料切れ、成り疲れをさせないように心がけます。
 - ③ うどんこ病、ウイルス病に抵抗性がありますが、未確認のレースには罹病の可能性もありますので予めご了承ください。



栽培のポイント!

播種から育苗

発芽適温は25～28℃で一般の南瓜と変わりません。20℃前後でも十分発芽はしますが、日数を要したり苗立ち枯れ病(リゾクトニア)等による障害が子葉に出る場合がありますので、床温をやや高めにして発芽を揃えるようにします。移植は本葉一枚目の展開時ポットに鉢上げし、育苗日数45日(高温時)～60日(低温時)で定植するのが理想です。

床温は20～25℃が適温です。根の伸長には15℃以上あれば足りませんが、移植直後は床温を高めにして活着を良くし、その後は温度を下げ徒長を防ぎます。昼夜温度の差は12～15℃が良く、最高温は30℃にならないよう心がけます。水の管理は他の野菜に比べやや控えめにします。

元 肥

一般の南瓜と同様と考えて良いですが、窒素成分はやや控えめとします。10a当りの成分量は、N=8kg、P=15kg、K=10kg程度とし、緩効性の肥料を用いるのがポイントです。

定 植

定植時の地温が12℃以下であれば活着が非常に悪いので、15℃以上を目標に、低温期はマルチ等を張り、晴天の日などで地温を十分に上げてから定植するように心がけます。畦幅は150cm1条、株間は90～100cmで10a当り700本程度が一般的ですが、高温期は株間をやや広めにとります。地温を上げる意味と、湿害を避けるために畦の中央をやや高くした、カマボコ型の高畦とすることが望ましいです。

追 肥

追肥は1番花の開花時に効くようにするのが良く(定植後15～20日)、10a当りN=5kg、K=5kg程度の成分を施し、マルチ栽培を行ったときは穴を開けて施す穴肥が有効です。特に高温期に肥料切れするとウイルス病発生の恐れがあるため注意が必要です。

収 穫

- 良品多収にするためには以下の点を特に注意します。
- ※ **若穫りをする事**… 開花後4～6日が収穫適期となるため、早めに収穫していきます(1番花は定植後25～30日で開花し、以後連続開花する)。
 - ※ **商品価値の高い大きさを収穫する事**… 直径4～5cm、長さ17～20cm位の大きさが、食味も良く市場性が高くなります。大きすぎると皮が硬くなり食味が落ちます。
 - ※ **取り残しの果実をそのまま大きくしない事**… 変形果や果皮に傷が付いたものでも早く取り、特に根元辺りの取り残し果、見残し果がないよう注意します。
 - ※ **人工授粉を行う事**… ハウス・トンネル栽培や梅雨期等、昆虫の飛来が少ない時期は手作業での人工授粉を行い着果を安定させ、収量を上げるようにします。

下記標準栽培表を参考に貴地の気候に合わせて栽培してください。

	3	4	5	6	7	8	9	10	11
露地トンネル	●	×	—	—	—	—	—	—	—
露 地	●	×	—	—	—	—	—	—	—
ハウス抑制					●	×	—	—	—

● 播種 ● 育苗 × 定植 — 生育 □ 収穫